

第 6 次埼玉県保健医療計画に基づく病院整備計画の整備計画報告書

- 1 医療法人山柳会 塩味病院

- 2 朝霞市溝沼 2 - 4 - 1

- 3 整備計画 増床 17床

在宅医療	8床
回復期リハビリテーション	9床

- 4 建築着工（改修） 平成32年 2月
 建築竣工（竣工） 平成32年10月
 従事者確保 平成32年10月
 使用許可 平成32年11月
 開設（増床） 平成32年12月

5 （役割・機能）

現在は一般（急性期、亜急性期）36床、回復期24床にて運営を行っている。診療内容は一般内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、神経内科、循環器内科、整形外科を中心としている。

一般病床は地域の患者様を主体に、急性期の患者様、他院からの亜急性期の患者様、または地域の施設からの患者様の受け入れを行い、加療および内服調整後、在宅や施設に復帰させることを中心に行っている。

回復期リハビリテーションは、整形外科疾患、脳血管障害疾患の患者様が主体であり、自院の神経内科や整形外科の患者様の病状変化時は勿論であるが、急性期治療を終えた患者様を他院より御紹介を頂き、加療を行っている。

（新たに担う役割と将来の方向性）

当院では朝霞市内中心に現在訪問診療 1650 件、訪問看護 860 件、訪問リハビリ 650 件（年延べ人数）を行っており、今後も対象件数は増加すると考えている。これらの利用者の急変時の対応は当院にて速やかに行い、また地域施設からのレスパイト入院希望にも出来る範囲で速やかに対応を行っていく。この機能を賄うために増床分を充てる事を考えている。他院での急性期病床数は今後増加することはない、早急に転床を行う必要性のある患者様は増えていくと思われ、看護必要量の見定めは重要となってはくるが亜急性期としての患者様として入院加療を行っていくため、増床が必要と考える。

尚、当院で対応できない疾患の患者様は、同一圏域高次機能病院に紹介し、患者様の安全に配慮する事を今後も変わらず行っていく。

増床病棟

在宅医療8床

回復期リハビリテーション9床

在宅医療は今回の許可で初めてであるが、今までの自院の機能から考え、自院外来からの入院、施設や在宅療養中の方、包括支援センターからの紹介、地域診療所からの紹介患者様が主体となり、入院加療を行うこととなると考えられる。

回復期病床は下記に示すとおり他院よりの紹介及び自院の神経内科や整形外科からの患者様、内科病床における急性期病状加療後の廃用症候の患者様が主体となっている

平成30年1月～12月 回復期入院病床件数66件
(全転院紹介件数 231件)

TMG 朝霞医療センター	38件
新座志木中央病院	5件
国立埼玉病院	7件
日大板橋病院	6件

6 (既存病床の概要)

		平均在院日数	稼働率
一般病床	36床 急性期	31～40	89.95%
回復期	24床	89	75.6%

診療実績 地域の高齢者が主体となっている。

一般病床 内科 (入院) 慢性疾患の急性増悪、脳血管疾患、肺炎等在宅療養中の方の病状悪化に対応を行っている。
(外来) 消化管肝臓 循環器 神経内科 呼吸器系
内分泌系等

重症者は高次機能病院へ紹介としている。

整形外科 慢性疾患対応 小手術のみ対応

救急医療 平成30年4月から平成31年2月において、緊急患者の受け入れは176件(初診83件、再診93件、内救急車65件)であり、近々3か月間の救急車受け入れ患者は90%で入院加療の必要な患者であった。

元々規模の小さな病院であるため地域住民の方が対象となっており、かかりつけの患者様、老人保健施設あるいは老人ホーム(他法人含む)入所者における疾病の増悪時、近隣の診療所からの紹介患者様の入院等多彩な状況である。このため、基本は在宅復帰であるが紹介施設への逆紹介、あるいは回復期への転棟(床)、当方の施設入所等多岐にわたる。

在宅復帰の場合にもケアマネージャー、相談員の関与のもと包括支援センター、訪問看護、訪問診療との密な連携を図り、医療だけでなく介護やリハビリテーションの実施にも努めている。